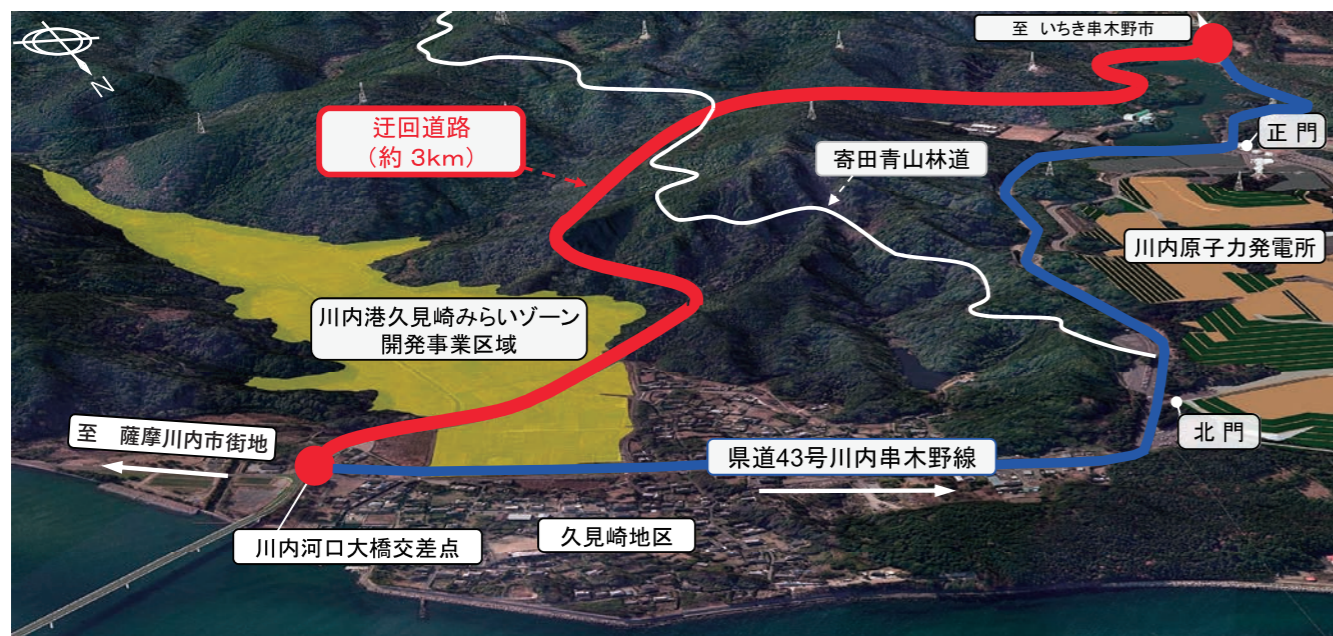


④ 川内原子力発電所の迂回道路建設計画について(九州電力)

- 迂回道路建設計画について、概要の説明がありました。

概要

発電所の敷地から離れた場所に迂回道路を建設し、発電所に隣接している県道43号と交換する。川内河口大橋付近から川内港久見崎みらいゾーン開発事業区域を經由し、川内原子力発電所を迂回したうえで、いちき串木野市方面へ通行できるルートとしている。
(2023年度 供用開始予定)



目的

- 発電所周辺の地域住民の交通安全の確保と発電所の運用性向上
(万が一の災害時に円滑な事故収束作業が可能となり、現在の県道を資機材や防災車両等の受入れエリアとして活用できる)
- 発電所の防護対策の強化
(関係者以外が発電所に容易に近づけないようにできる)
- 避難道路の充実
(発電所に近づかずに避難することができる)



主な質疑応答

- Q 迂回道路は抜本的な交通対策となる施策だが、県が実施した避難時間シミュレーション結果及び対策とは、どのような関係があるのか。
- A 寄田地区の避難ルートであるいちき串木野市方面で渋滞が起こるといふシミュレーション結果が出ており、それに代わる代替経路案の一つとして、薩摩川内市とも協議しながら、検討を進めている。(鹿児島県回答)

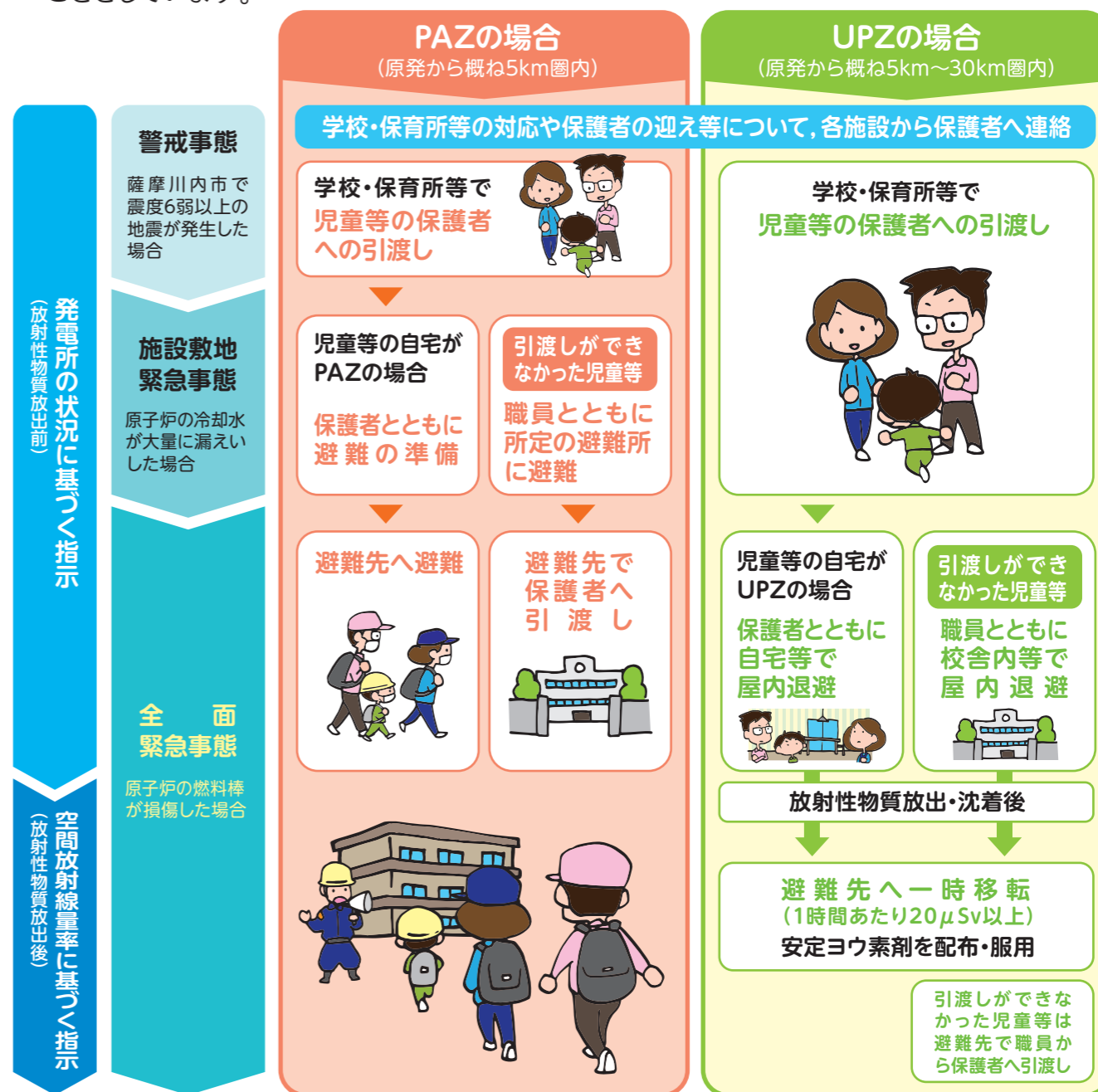
その他コメント

委員： 発電所の東側の山間部は、地下水が関与する深層崩壊が起こる可能性がある火山性の地質なので、工事の際は、地下水の状況に十分に注意する必要がある。

原子力防災講座 vol.3

学校・保育所等の避難

- 今回は原子力災害時等における学校・保育所等の避難の一例についてご紹介します。(児童等の自宅及び通学・通園先がともにPAZの場合と、同様にUPZの場合)
- PAZ, UPZ内の学校・保育所等においては、原子力災害が発生する前の「警戒事態」の段階で児童等を保護者へ引渡すこととしています。なお、引渡しができなかった児童等については、職員とともに県等が確保するバスで避難先施設に避難し、そこで保護者に引渡すこととしています。



※児童等の引渡しを受けた後は、お住まいの地域がPAZかUPZかによって、避難等の行動が異なります。県や関係市町の指示に従って、あわてず落ち着いて行動してください。